

問題1

1-1.出題意図

問題文（英文）は、2022年に Annual Reviews of Psychology に掲載されたセルフ・コンパッションに関する学術論文より抜粋・改変したものである。問題文では、セルフ・コンパッションの定義や他の類似概念との違いが丁寧に解説されている。カウンセリング科学学位プログラムを志望する受験生にとって関連性が高く、英文の難易度も適切であると判断し、これを選定した。

(1)(2)は、セルフ・コンパッションの概念に関して説明した文章の翻訳を求めるものである。(3)は、セルフ・コンパッションとの類似概念である「pity」との違いを本文で述べられていることを通して簡単に述べることができるかを問う問題である。いずれの設問も、一定量の英文の学術論文を読み取り、内容を把握し、適切にまとめる力を評価することを目的としている。

1-2.問題文と解答例

(1) 下線部①を日本語に訳しなさい (150字以内)。

仏教的な観点からは、コンパッションは一方向ではなく全方向的であり、自分自身と他者の両方を含む。したがってセルフ・コンパッションを理解するには、「コンパッションの経験」をしているときに、何が起きているのかをより全般的に考えることが役に立つ。

(2) 下線部②を日本語に訳しなさい (250字以内)。

私はセルフ・コンパッションを、多面的な構成概念として操作的に定義してきた。それは互いに重なりつつも概念的に区別可能な要素から成り、3つの広範な領域に大まかに整理できる。すなわち、苦しみに対して人がどのように情動的に反応するか（思いやりをもってか、批判的にか）、自分の状況をどのように認知的に理解するか（人間経験の一部としてか、それとも孤立したものとしてか）、苦しみにどのように注意を向けるか（マインドフルにか、過度に同一化してか）である。

(3) 著者は compassion と pity との違いをどのようなものだととらえているか日本語で説明しなさい (200字以内)。

コンパッションは、他者の苦しみに向き合い、それが不快なものであっても受け入れる態度が必要であり、苦しむ人とのつながりを感じ、自分も同じ人間として関わる姿勢がある。一方、ピティ（憐れみ）は、相手を自分から切り離し、外部の存在として「かわいそうだ」と評価する態度であり、共感的なつながりではなく、隔たりや上下関係を前提とする。

問題2

2-1.出題意図

問題文（英文）は、2013年に発刊された書籍『The Oxford Handbook of the Psychology

of Working』の「Race and Working」の章より抜粋・改変したものである。問題文では、米国の有色人種が奴隷労働や搾取の歴史を背負い、現在も不利益が続いていることが述べられており、格差の説明には、生涯続く制度的障壁を強調する持続的不平等の観点と、世代差や政策影響を重視するコホート説明の観点の2つがあることを指摘している。現在、日本においても人種による差別が問題となっていることから、カウンセリング科学学位プログラムを志望する受験生にとって有益な題材であり、英文の難易度も適切であると判断し、これを選定するに至った。

(1) は、下線部①を日本語に適切に訳すことができるかどうかを問う問題である。

(2) は、下線部②について、持続的不平等の観点と、世代差や政策影響を重視するコホート説明の観点の2つを理解し、それらを日本語で適切にまとめられるかを問う問題である。

2-2.問題文と解答例

(1) 下線部①を日本語に訳しなさい(200字以内)。

仕事は人種的および文化的文脈の中に位置づけられ、そのため人種は有色人種の仕事経験と機会において重要な役割を果たしている。米国雇用機会均等委員会によると、人種に関連する差別は、従業員（または従業員になる見込みのある人）が、彼または彼女の人種または人種に関連する特性のために不利に扱われる場合に発生する。

(2) 下線部②について、本文で述べられている2つの観点から日本語で説明しなさい(200字以内)。

持続的不平等の観点は、有色人種が労働市場で直面する制度的および差別的な障壁が生涯にわたって持続し、人種による労働力の格差の一因となっていることを示唆している。一方、コホート説明の観点は、雇用格差は世代間の違いや、労働者の世代に異なる影響を与える社会的勢力や政策の結果であるとするものである。

問題3

3-1.出題意図

問題文（英文）は、2019年に Journal of Medical Internet Research に掲載された AI 技術がメンタルヘルス分野にもたらす影響を論じた学術論文より抜粋・改変したものである。問題文では、精神医学やカウンセリング領域における AI 技術の導入事例を紹介するとともに、今後の発展への期待が述べられている。一方で、AI 技術に依存することで人との直接的な関わりがさらに制限されるといった懸念も指摘されている。急速に進展する AI 技術がカウンセリングの領域に及ぼす影響を批判的に検討した論文であり、カウンセリング科学学位プログラムを志望する受験生にとって関連性が高く、英文の難易度も適切であると判断し、これを選定するに至った。

(1) は、前半部分に記述された「AI 技術がカウンセリング分野にもたらすメリット」について、要点をまとめる力を問う問題である。(2) は、後半部分に記された「AI 技術に関する長期的な懸念」について、要点を整理できるかを問う問題である。いずれの設問

も、一定量の英文の学術論文を読み取り、要点を把握し、適切に要約する力を評価することを目的としている。

3-2.問題文と解答例

(1) AI をメンタルヘルス分野の治療やカウンセリングに活用する利点について、本文の内容をもとに日本語で説明しなさい (200 字以内)。

AI の活用は、精神的支援を必要とする人々に新しい介入の機会を提供する利点がある。例えば、社会的スティグマを避けたい人やリテラシーの低い患者でも安心して利用でき、恥ずかしさを感じずに情報や支援を得られる。また、自己ペースでサービスを受けられることから、信頼感や安心感が高まりやすい。さらに、早期発見や高リスク群への支援にも有効であり、低コストかつ自己管理型であり、多様な患者を支援できる。

(2) AI をメンタルヘルス分野の治療やカウンセリングに活用する懸念について、本文の内容をもとに日本語で説明しなさい (200 字以内)。

AI 活用には、患者が機械に過度に依存する危険性や、人と人との関係性が損なわれる懸念がある。長期的には、ケアをロボットに委ねることで社会的価値観が変化し、患者のアイデンティティや主体性にも影響を及ぼす可能性が指摘される。特に、自閉症児や性嗜好障害者への介入が人間関係の改善につながらない場合、人間との関係をむしろ制限する恐れがある。